



TEACH体験談

2015年度修了生

目次

- 自己紹介
- TEACHでの2年間（大まかなスケジュール）
- 研究内容について
- ボン大学への修士論文提出までの流れ
- 大変だったこと
- 良かったこと
- TEACH入学予定のみなさんへアドバイス

自己紹介

- 学部時代：他大学のドイツ語学科卒業
- 大学院：筑波大学 人文社会科学研究科 国際地域研究専攻
- 研究のキーワード：移民の社会統合、外国人児童生徒の教育支援、日独比較
- 修了年度：筑波大学修士課程修了（2016年3月）/ボン大学修士課程修了（2018年7月）
- 修了後：筑波大学 人文社会科学研究科 国際日本研究専攻 進学/ルール大学ポーフム 研究留学

TEACHに入学した理由

- 学部時代はドイツ語を専攻し、卒業後はドイツの大学院への進学を考えていた
- ただ、いきなりドイツの大学院に入学し、研究生活を送ることに対して不安を抱いていた
- TEACHでは筑波大・ボン大（筑波大・高麗大/高麗大・ボン大）両方で修士号が取得できることにくわえ上記の不安に対して、留学という形でドイツの大学院で学べるのが魅力的だった
- これまで学んできたドイツ語のほか、新たに韓国語を学ぶきっかけとなり韓国へ留学もできる
- 日本の修士号プラスもう一つの国で修士号を取得できることは、その後の研究活動（就職）に役立つのではと考えた
- 自分の関心のある研究内容について指導をお願いしたい先生が、筑波大にいらっしゃった

TEACHでの2年間

1年目(日本) 4月～9月	1年目(ドイツ) 10月～3月	2年目(日本) 4月～9月	2年目(韓国) 10月～3月
<ul style="list-style-type: none">・宿舎生活・TEACHのカリキュラム把握・ジョイントリサーチセミナーや地域研究科目の履修・語学の授業(ドイツ語と韓国語)	<ul style="list-style-type: none">・ボン大学留学開始・入学手続き、ビザ申請・ドイツの大学のモジュールの把握・ジョイントリサーチセミナーや地域研究科目の履修・語学の授業(ドイツ語と韓国語)・ドイツでの現地調査・ボン大学の指導教官へ論文指導依頼	<ul style="list-style-type: none">・日本帰国・別の宿舎へ入居・語学の授業(韓国語)・日本での調査・修論の大枠を固める・韓国留学ビザ申請・修了後の進路を考え始める	<ul style="list-style-type: none">・高麗大学留学開始・入学手続きとビザ取得・語学の授業(韓国語)・筑波大・ボン大の指導教官とメールでのコミュニケーション・文献収集(国会図書館によく行っていた)・博士課程入試のため一時帰国・筑波大学に修論提出

ボン大学 修論提出までの流れ

◦ ネイティブチェック

ネイティブチェックをお願いするドイツ人のパートナーと、何度も打ち合わせを重ねました。自分の研究内容をドイツ語で正確に表現できているかどうかなど、完璧に仕上げようと思うと半年はかかります。私も日本語のネイティブチェックをしましたが、結構時間がかかるので、早めにパートナーを見つけてネイティブチェックのスケジュールを一緒に立てることをお勧めします。

◦ 指導教官と定期的に連絡を取る

ドイツ留学中に必ずボン大学での指導教官を見つけ、論文指導の承諾を得る必要があります。ボン大学への論文提出は時期的に日本か韓国からとなるため、メールで進捗報告などを積極的に行い、自分の存在を忘れられないように努めました。

◦ 修論提出に係る申請書類の作成

„Erklärung zur Masterarbeit“ と „Anmeldung zur Masterarbeit” の作成および郵送、指導教官からサインをもらう

大変だったこと

- 手続きが多いこと（留学に関連する手続き、住居申請、ビザ、授業登録等々、基本的な留学の際に必要な手続きが多いので、みんなで情報共有し協力し合うことが大事）
- 自分の帰属がたまに分からなくなる（国際地域？ゼミ？TEACH？日本？ドイツ？移動が多いので、自分の居場所はどこなのかアイデンティティの葛藤に陥ることもあった。留学中もホーム校の指導教官やゼミ生と連絡を取り合うことで、帰国後スムーズにゼミに参加することができると思う）
- 留学手続きや引っ越しなどで、落ち着いて研究できる期間は意外と少ない
- 2年間で2本の論文を書くこと（私の場合、ボン大学は期間を延ばし2018年度修了しました）

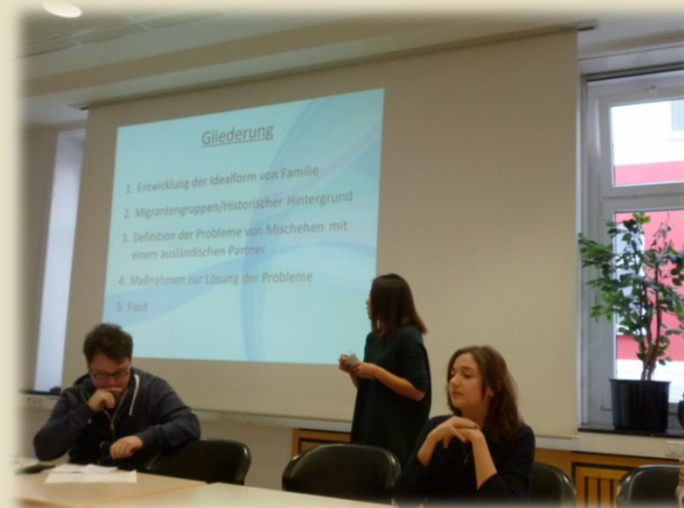
良かったこと

- 2年間の内にドイツと韓国に留学することができること
- ドイツ語と韓国語などの語学の授業が充実していること
- 言語を学び合う場が身近にあること、いつでも質問できること
- TEACH生の中でも専門が異なるので、知識の幅が広がること、多様な意見が得られること
- 国籍を越えて、苦労を共にした仲間ができること



JRSセミナー終了後の様子 ↑

ボン大学にて「アジアにおける企業と家族」シンポジウムでの発表の様子（2015） →



アドバイス

◦ 自分で人を動かすという意識をもって下さい

既述の通りTEACHは移動が多い分、手続きも多いです。時には、事務手続き関連でこちらから催促をしたり、状況確認のための連絡を入れるなどの働きかけが欠かせません。全てを人任せにしないことで、よりスムーズに手続きを進められたり、トラブル回避にも繋がると実感しました。

◦ できるだけ2年間で終わらせた方が良いでしょう

私の場合、博士課程に進んでからボン大学の修論を完成させました。博士課程の研究と修士論文執筆との両立は簡単なものではありませんでした。これが就職だとなおさらだと思えます。修士の2年間である程度終わらせておくことをお勧めします。

◦ リフレッシュする時間も大切にして下さい

忙しい日々の中でも、せつかくドイツ・韓国で学ぶ機会があるので、各国内に留まらずヨーロッパを旅行したり、各国の雰囲気を味わったり、一瞬でも研究を忘れられる時間が意外と重要だったりします。あるいは、そうした時間にパッと研究のアイデアが浮かんだりもします。研究とリフレッシュタイムのバランスを上手くとってより充実したTEACH生活を送ってほしいと思います。